

# **第3次十和田市行政改革実施計画**

**【令和元年度実績反映版】**

# 目 次

## 1 業務改善等による効果的な行政経営

### (1) 事務処理の効率化及び行政サービスの質の向上

No.	実 施 事 項	担 当 課 等	ページ
1	部署再編の推進	総務課	1
2	マイナンバー制度導入への適切な対応	政策財政課	2
3	消防団の統廃合及び環境整備	総務課	3
4	住民票の写し及び印鑑登録証明書のコンビニ交付の実施	市民課	4
5	十和田湖公民館図書室の蔵書の有効利用	市民図書館	5
6	維持管理業務委託の標準化	管財課	6
7	防犯灯・街路灯省エネルギー化事業	まちづくり支援課	7
8	上下水道部の窓口業務の内容の見直し	管理課	8

### (2) 民間活力活用の推進

No.	実 施 事 項	担 当 課 等	ページ
1	三本木霊園への指定管理者制度の導入	まちづくり支援課	9
2	市民交流プラザへの指定管理者制度導入の検討	まちづくり支援課	10
3	公用バスの管理運行委託の検討	管財課(旧十和田湖支所分)	11
4	地域包括支援センターの業務委託の検討	高齢介護課	12
5	地方卸売市場の民営化	とわだ産品販売戦略課	13
6	十和田湖観光交流センターへの指定管理者制度導入の検討	商工観光課	14
7	除雪パトロールと除雪業務の一括委託	土木課	15
8	事務の外部委託の検討	総務課	16
9	仲よし会への指定管理者制度導入の検討	こども支援課	17
10	アネックススポーツランドへの指定管理者制度導入の検討	スポーツ・生涯学習課	18

### (3) 組織規模及び任用・給与等の適正化と人材育成等の推進

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	民間企業派遣制度導入の検討	総務課	19
2	保健師資格者の行政職給料表への切替えの検討	総務課	20
3	国際教育支援事業の見直し	指導課	21
4	特殊勤務手当の見直し	総務課	22
5	定員管理の適正化	総務課	23

### (4) 自主性・自立性の高い財政運営の確保

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	庁内備品の再利用の推進	管財課・会計管理者	24
2	公共施設通勤車両の駐車スペースの有料化	管財課	25
3	長寿祝金の見直し	高齢介護課	26
4	市民ふれあい農園の有料化	農林畜産課	27
5	現代美術館観覧料の見直し	商工観光課	28
6	市営の駐車場料金の見直し	関係課	29
7	有料広告の拡充	関係課	30
8	公共施設における自動販売機の設置方法の統一化	管財課(施設所管課)	31

## 2 市民と行政との協働

### (1) 市民との協働の推進

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	外部評価の実施	政策財政課・総務課	32

### (2) 市民参画の推進

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	外郭団体の自立の推進	関係課	33

### 3 公共施設等の再編整備による資産の総合的な利活用

#### (1) 公共施設等の総合的な管理と適正配置

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	市有財産の貸付に係る有償化等の検討	管財課	34
2	財産台帳電子システムの導入	管財課・会計管理者	35
3	小・中学校における統廃合	教育総務課	36

#### (2) 公共施設等市有財産の利活用の最大化

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	公共施設等総合管理計画の策定	管財課	37

### 4 定住自立圏を活用した広域行政の推進

#### (1) 広域事務処理の拡大による行政サービスの向上

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	十和田地区食肉処理事務組合の運営のあり方の検討	農林畜産課	38
2	十和田地区環境整備事務組合の運営のあり方の検討	関係課	39

#### (2) 公共施設の相互利用と適正配置

No.	実施事項	担当課等	ページ
1	職業能力開発校の広域的な連携の検討	商工観光課	40
2	公共施設の相互利用促進	スポーツ・生涯学習課	41

# 1 業務改善等による効果的な行政経営

(1) 事務処理の効率化及び行政サービスの質の向上

1	部署再編の推進	担当課等	総務課			
取組内容			継続			
業務内容の変化に即した組織の見直しを行う。						
効果						
業務の効率化が図られる。						
評価指標						
評価指標: 職員数(人) 数値の測定: 前年度との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	実施	実施
効果額・数値	予定					
	実績		△ 1人	△ 1人	△ 3人	△ 10人
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化を図り、職員数の見直しを行う。</li> <li>・正職員の増減に伴う効果額は、「1-(3)-5 定員管理の適正化」に計上し、本項目は内数の一部とする。</li> </ul>					

令和元年度の実施内容	
【平成31年4月1日現在における実績】	
職員数 △ 10人	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事課を総務課へ統合 △ 1人</li> <li>・十和田湖支所廃止 △ 7人</li> <li>・十和田湖公民館の廃止 △ 3人</li> <li>・西コミュニティセンターの設置 3人</li> <li>・子ども家庭相談センターの設置(こども子育て支援課内) 1人</li> <li>・農林部と観光商工部の統合 △ 1人</li> <li>・商工労政課と観光推進課の統合及び係の再編 △ 2人</li> </ul>	

2	マイナンバー制度導入への適切な対応	担当課等	政策財政課			
取組内容			新規			
マイナンバー制度導入により、市と他機関等の情報連携に適切に対応する。						
効果						
手続きの簡素化により、市民等の利便性向上が図られる。						
評価指標						
評価指標:各種届出における省略可能な添付書類の種類 数値の測定:平成26年度と比べ、関係部署において省略可能となる添付書類の種類の数						
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
取組工程	予定	各業務システムの改修	他機関と連携するための調整	他機関との連携開始	本格運用	本格運用
	実績	各業務システムの改修	自治体間情報連携テスト等を完了	平成29年11月13日他機関との連携開始	各種障害者手帳の本格運用開始	年金関係事務の本格運用開始
効果額・数値	予定		2	16	16	17
	実績		2	15	16	17
備考	<b>【省略可能となる添付書類の種類】</b> ・平成28年度 2種類(①住民票、②課税証明書) ・平成29年度 13種類(③生活保護証明、④中国残留邦人本人確認証、⑤各医療保険保険証、⑥休業給付支給決定通知、⑦雇用保険受給資格者証、⑧児童扶養手当証書、⑨特別児童扶養手当証書、⑩戦没者等の妻に対する特別給付金国債、⑪戦没者等の遺族に対する特別弔慰金国債、⑫職業訓練受講給付金支給決定通知書、⑬特定医療費受給者証、⑭各福祉手当受給者証明書、⑮医療証) ・平成30年度 1種類(⑯各種障害者手帳) ・令和元年度 1種類(⑰年金額を示す書類)					

令和元年度の実施内容	
日本年金機構等における年金関係事務の情報連携が令和元年6月17日から可能となり、実施した。	

3	消防団の統廃合及び環境整備	担当課等	総務課			
取組内容			継続			
消防団組織再編計画を踏まえ、計画的に消防団の統廃合等を実施する。						
効果						
老朽化した消防屯所及び消防団車両を順次更新することにより、消防団活動拠点施設の環境整備が図られる。						
評価指標						
評価指標：統廃合による管理施設(①消防団屯所、②消防団車両)の数 数値の測定：平成26年度に比較して減少した施設の数						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	実施	実施
効果額・数値	予定	①△1 ②△1	①△3 ②△3	なし		
	実績	①△1 ②△1	①△3 ②△3	①△3 ②△3	①△4 ②△4	①△4 ②△4
備考	<b>【屯所と消防団車両の数】</b> ・平成26年度 50屯所、52台 ・平成27年度 49屯所、51台(三日市・下洗：統合により新屯所建設) ・平成28年度 47屯所、49台(焼山・淵沢：団員減少により淵沢へ統合、館・赤伏：統合により新屯所建設) ・平成29年度 47屯所、49台(段ノ台建替え、大沢田・平山車両更新) ・平成30年度 46屯所、48台(淵沢建替え、伝法寺・新川原車両更新、太田廃止) ・令和元年度 46屯所、48台(上切田建替え、百目木・五十貫田車両更新)					

令和元年度の実施内容					
上切田屯所建替え		増減なし			
百目木、五十貫田車両更新		増減なし			
【年度別実績一覧】					
平成26年度 (基準年度)	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
屯所数50か所	屯所数49か所	屯所数47か所	屯所数47か所	屯所数46か所	屯所数46か所
消防団車両52台	消防団車両51台	消防団車両49台	消防団車両49台	消防団車両48台	消防団車両48台

4	住民票の写し及び印鑑登録証明書のコンビニ交付の実施	担当課等	市民課			
取組内容			新規			
全国どこでも証明書等が取得できるコンビニエンスストア交付を実施する。						
効果						
待ち時間短縮等、市民の利便性向上及び業務の効率化が図られる。						
評価指標						
評価指標: コンビニエンスストアで交付された①住民票、②印鑑登録証明書の枚数(枚)						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	準備	準備	準備	平成30年度以降、条件が整い次第実施	
	実績	準備	準備	調査研究		
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	<p>【見込み枚数の積算方法】  26年度交付枚数 × 10% (マイナンバーカード交付者) × 70% (マイナンバー交付者の20~70歳の割合)  ・住民票 29,950枚 × 10% × 70% ≒ 2,000枚  ・印鑑登録証明書 21,041枚 × 10% × 70% ≒ 1,500枚</p> <p>【実施の延期について】  ・交付単価試算の結果、当初想定した交付単価よりも高額となったため、当該業務の実施を延期することとした。  ※ 平成28年6月定例会全員協議会にて報告済み  ・交付単価 3,575円(令和2年9月18日現在)</p> <p>【参考】  ・マイナンバーカード交付累計 9,681枚(令和2年3月31日現在)  &gt; 令和元年度交付枚数 1,954枚(令和2年3月31日現在)  ・コンビニ交付実施自治体数 751市区町村(全国1724市区町村中)  &gt; 青森市 令和2年2月年開始  &gt; 八戸市 平成28年8月から開始</p>					



5	十和田湖公民館図書室の蔵書の有効利用		担当課等	市民図書館		
取組内容						新規
十和田湖公民館図書室の蔵書の一部を市民図書館の図書として所管替えする。						
効果						
蔵書の有効利用が図られる。						
評価指標						
評価指標: 市民図書館の蔵書冊数の増加分に相当する図書購入費(千円) 効果の測定: 増加冊数 × 2千円(通常1冊あたりの平均図書購入費)						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	実施	実施			
	実績	実施	実施			
効果額・ 数値	予定	△9,000	△9,000			
	実績	5,016冊 △9,028	5,014冊 △6,536			
備考	十和田湖公民館にある蔵書約16,800冊のうち、約10,000冊を2か年に分けて十和田市民図書館へ移管した。					

6	維持管理業務委託の標準化	担当課等	管財課			
取組内容					追加	
施設の状況に合わせた業務仕様書の基準を作成する。						
効果						
事務の負担軽減及び施設の利用状況に見合った維持管理の平準化ができる。						
評価指標						
評価指標: 委託料(千円) 効果の測定: 平成28年度と各年度との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定		調査・検討 基準作成	基準に基づき維持 管理業務委託	基準に基づき維持 管理業務委託	基準に基づき維持 管理業務委託
	実績		清掃業務 基準表作成	未実施	未実施	共通仕様書での清掃 業務委託を実施
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考						

令和元年度の実施内容	
<p>次の6施設において、共通仕様書に基づき清掃業務委託を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 十和田市役所</li> <li>2. 東コミュニティセンター</li> <li>3. 南コミュニティセンター</li> <li>4. 市民交流プラザ</li> <li>5. 保健センター</li> <li>6. 市民図書館及び教育研修センター</li> </ol> <p>※ 効果額については、共通仕様書に基づく清掃項目(清掃回数等)の平準化による差額その他、人件費の増加等が委託契約額に反映されていることから、正確な数値の算出が困難なため計上しない。</p>	

7	防犯灯・街路灯省エネルギー化事業	担当課等	まちづくり支援課			
取組内容						追加
市内全域の防犯灯及び街路灯をLED灯に一括交換し、10年間の維持管理を包括的に委託する。						
効果						
防犯灯及び街路灯のLED化により、電気料金が削減となる。また、町内会の街路灯の電気料金に係る負担が軽減される。						
評価指標						
評価指標: 防犯灯・街路灯の電気料、維持管理経費(千円) 効果の測定: 事業実施前年度における防犯灯の電気料金及び街路灯に係る補助金額の合計額と事業実施後の経費との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	町内会へ説明	事業者決定 事業実施			
	実績	町内会へ説明	事業者決定 事業実施			
効果額・ 数値	予定		△17,100	△16,981	△17,100	△17,100
	実績		△3,198	△16,974	△14,590	△16,630
備考	<b>【防犯灯・街路灯の現状】</b> ・防犯灯 1,000灯 市が管理 ・街路灯 6,000灯 各町内会が管理(電気料の7割を市が補助) ・LED化により電気料金は3分の1程度になる見込み <b>【LED化の状況】</b> ・防犯灯 平成29年2月から実施 ・街路灯 平成28年12月から順次実施					

令和元年度の実施内容					
<b>【効果額】</b>					
・令和元年度実績19,426,049円－平成27年度実績36,055,556円＝19,426,049円					
・実績一覧					
	平成27年度 (基準年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
防犯灯電気料	13,201,966円	11,359,187円	8,740,520円	9,382,771円	8,976,660円
防犯灯修繕料	1,637,590円	2,853,023円	1,509,352円	2,641,946円	2,027,389円
町内会電気料補助金	21,216,000円	18,645,000円	8,831,000円	9,441,000円	8,422,000円
合計	36,055,556円	32,857,210円	19,080,872円	21,465,717円	19,426,049円
効果額		△3,198,346円	△16,974,684円	△14,589,839円	△16,629,507円

8	上下水道部の窓口業務の内容の見直し	担当課等	管理課			
取組内容			追加			
窓口業務の見直し(①コンビニ納付の実施及び土日祝日における窓口での上下水道料金の徴収業務の廃止、②管理課と水道課の業務委託契約の一元化)を行う。						
効果						
① 上下水道料金の納付場所や納付可能時間の拡張により、市民の利便性の向上が図られる。 ② 料金収納業務の廃止等に伴う委託料の削減が図られる。						
評価指標						
評価指標:業務委託契約の見直し前後における料金徴収業務に係る人件費等(収納手数料等を含む)の差額						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定				業務の見直し検討 先進地調査	実施
	実績				業務の見直し検討 先進地調査	実施
効果額・ 数値	予定					△ 1,900
	実績					△ 3,155
備考	令和元年8月から開始を予定しているコンビニ収納及び平成31年4月からの水道課の委託契約の見直しにより業務量が推測しにくいことから、データ収集期間を設けた上で実施する。					

令和元年度の実施内容																
【窓口業務の見直しについて】																
・令和元年9月27日～ 水道料金及び下水道使用料のコンビニ収納を開始																
・令和元年10月1日～ 水道料金及び下水道使用料の徴収業務を直営で実施																
> 令和元年9月30日 窓口業務の民間委託を終了																
> 令和2年3月31日 土日休日及び時間外における水道料金及び下水道使用料の徴収業務を廃止																
【効果額】																
年度	平成30年度			令和元年度												
実施期間	4月～3月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実施内容	窓口業務(民間委託) 委託職員3名 (A)12,226,982円(税込)			窓口業務(民間委託) 委託職員3名 (B)6,073,380円(税込)			窓口業務(直営) 期間事務職員3名 (C)1,999,934円(税込)									
	/			/			コンビニ収納を開始 (D)収納代行業者手数料 850,837円(税込)									
	/			/			レジスター賃借 (E)147,180円(税込)									
・効果額 = (A) - ((B) + (C) + (D) + (E)) ÷ △ 3,155千円																
【業務委託契約の一元化について】																
・これまで民間委託していた水道の開閉栓業務及び宿日直業務について、令和元年度より、水道施設維持管理業務委託(水道課)に含めて契約を行い、業務委託契約の一元化を図った。																

# 1 業務改善等による効果的な行政経営

## (2) 民間活力活用の推進

1	三本木霊園への指定管理者制度の導入		担当課等	まちづくり支援課			
取組内容							新規
三本木霊園へ指定管理者制度を導入する。							
効果		民間活力の活用と施設管理の効率化が図られる。					
評価指標							
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
取組工程	予定	検討・方針決定	直営で実施				
	実績	検討・方針決定	直営で実施				
効果額・ 数値	予定						
	実績						
備考	<p>【三本木霊園へ指定管理者制度を導入しないこととした理由】  正職員が配置されていない、時期に応じて必要な作業を個別に委託することでコスト削減が可能、墓地利用について空き区画がなく民間活力導入による収入増につなげる余地がない等の理由から、指定管理者制度を導入しないこととする。</p> <p>※ 第4次行政改革実施計画にて、令和4年度からの指定管理者制度の導入が決定している。</p>						

2	市民交流プラザへの指定管理者制度導入の検討	担当課等	まちづくり支援課			
取組内容						新規
市民交流プラザへ指定管理者制度の導入を検討する。						
効果						
民間活力の活用と施設管理の効率化が図られる。						
評価指標						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討・方針決定	直営で運営			
	実績	検討・方針決定	直営で運営			
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	<p>【市民交流プラザへ指定管理者制度を導入しないこととした理由】</p> <p>市民交流プラザの経費は、固定的な経費である施設の維持管理費と人件費からなり、指定管理者制度を導入しても削減が見込めない。また、施設の目的が市民の交流と活動拠点施設であることから、市が直接的に関与し支援していくことが必要であることから、指定管理者制度の導入は見送ることとする。</p>					

3	公用バスの管理運行委託の検討	担当課等	管財課(旧十和田湖支所分)			
取組内容						継続
公用バスの管理及び運転業務の民間委託の導入を検討する。						
効果		民間活力の活用と事務処理の効率化及びコスト削減が図られる。				
評価指標						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討・方針決定	当面、現状のまま運用			
	実績	検討・方針決定	現状のまま運用			
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	<p>【支所が所管する公用バスの管理運行委託を実施しないこととした理由】</p> <p>現状の経費と民間委託した場合の経費を比較したところ、民間委託すると現状の経費の倍以上のコストがかかる事が判明したため、当面、現状のまま運用する。(現在の運行経費約350万円。委託にした場合約1,085万円)</p> <p>※ 令和元年10月に、老朽化のため、公用バスを売却した。</p>					

4	地域包括支援センターの業務委託の検討	担当課等	高齢介護課			
取組内容			新規			
地域包括支援センターの業務委託の導入を検討する。						
効果						
民間活力の活用と事務処理の効率化及びコスト削減が図られる。						
評価指標						
評価指標:方針決定の有無 評価指標:人員基準に定める3職種の人件費(千円) 効果額の測定:3職種に係る委託前の人件費と委託料との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討	方針決定	方針決定	3施設で実施	3施設で実施
	実績	検討	検討	委託法人の公募・選定	運営業務委託開始	運営業務委託2年目
効果額・数値	予定				△2,961	△2,961
	実績				△2,961	△2,961
備考	・市内を3圏域に分けて、担当する地域包括支援センターを委託により3か所設置することとし、平成29年度内に委託法人を選定して、平成30年度から実施する。					

令和元年度の実施内容	
<p>・平成30年4月1日より、市内を3圏域に分け、十和田市東地域包括支援センター、十和田市北地域包括支援センター、十和田市西南地域包括支援センターを設置し、運営業務の民間委託を開始した。</p> <p>※ 委託契約期間 平成30年4月1日～令和3年3月31日まで(3年間)</p>	



5	地方卸売市場の民営化	担当課等	とわだ産品販売戦略課			
取組内容						継続
地方卸売市場を民営化する。						
効果						
民間活力の活用と市場運営の合理化が図られる。						
評価指標						
評価指標: 期間業務職員賃金(千円) 効果額の測定: 民営化前との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	準備	民営化実施	民営化実施	民営化実施	民営化実施
	実績	準備	民営化実施	民営化実施	民営化実施	民営化実施
効果額・ 数値	予定		△ 2,000	△1,670	△1,670	△1,670
	実績		△1,670	△1,670	△1,670	△1,670
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年4月から民営化を実施。</li> <li>・民営化により将来見込まれる施設の大規模修繕や建替え、また新規施設の建設に伴う多額の経費が不要となり、また、民間のノウハウや活力を用いた経営手法により、これまで以上の効果が見込まれる。</li> <li>・民営化前は正職員1人、期間業務職員1人を配置。民営化によりそれぞれ0人となる。</li> <li>・正職員の減少に伴う効果額は、「1-(3)-5 定員管理の適正化」に計上する。</li> </ul>					

6	十和田湖観光交流センターへの指定管理者制度導入の検討	担当課等	商工観光課			
取組内容						新規
十和田湖観光交流センターへの指定管理者制度の導入を検討する。						
効果						
民間活力の活用と施設管理の効率化が図られる。						
評価指標						
評価指標:方針決定の有無						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討	方針決定	方針決定	再度検討・方針決定	導入
	実績	一部民間委託をしながら検討	検討	方針決定	導入決定	導入
効果額・数値	予定					
	実績					
備考	・平成31年4月1日より、指定管理者による管理を開始した。					

7	除雪パトロールと除雪業務の一括委託	担当課等	土木課			
取組内容					新規	
除雪パトロールと除雪業務を一括して民間委託する。						
効果						
迅速かつ効率的な除雪体制の構築が図られる。						
評価指標						
評価指標:方針決定の有無						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討・方針決定	検討	協議・方針決定		
	実績	検討	検討	当面は現状の委託内容で実施することを決定		
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	<p>【民間委託を実施しないこととした理由】</p> <p>除雪事業者との協議の結果、除雪事業者側より「従事者の減少及び高齢化等により、包括的な除雪業務のための体制が整っていないため、除雪業務の一括受託は困難」との回答があった。このことから、当面は現体制で除雪業務を進めることとした。</p> <p>なお、除雪事業者側としては、「現在の建設業界の景気が上向かない限りは、新たに人材確保を必要とする包括的な除雪体制の構築は出来ない」とのことから、この計画は廃止とする。</p>					

8	事務の外部委託の検討	担当課等	総務課			
取組内容			追加			
定型的な業務のうち行政判断の必要がない事務について、他市町村の事例研究をし、民間事業者への委託を検討する。						
効果						
定型的な事務に係る費用対効果を高め、限られた財源や人材の有効活用を図る。						
評価指標						
評価指標: 方針決定の有無 (実施する場合) 評価指標: 削減する経費 効果額の測定: 実施前と各年度の比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定			検討 方針決定		
	実績		新規項目として 追加	継続して検討	方針決定 ・準備	実施
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考						

令和元年度の実施内容	
<p>・平成31年3月31日をもって十和田湖支所を廃止することに合わせ、平成31年4月1日から、西コミュニティセンター及び十和田湖郵便局で住民票、戸籍の謄抄本・附票の写し、印鑑登録証明書、納税証明書等の交付を行っている。</p> <p>【参考】令和元年度の交付実績 西コミュニティセンター1,516件、十和田湖郵便局 82件</p> <p>※ 十和田湖郵便局での交付事務は、令和元年度から新規に開始した事務であり経費の削減とはならないため、効果額・数値欄は空欄としている。なお、第4次行政改革実施計画において、単純労務業務や窓口業務等の民間委託を検討することとしており、今後も事務の民間委託を進めることとしている。</p>	

9	仲よし会への指定管理者制度導入の検討	担当課等	こども支援課			
取組内容			追加			
<p>市直営で運営している仲よし会へ指定管理者制度の導入を検討する。</p> <p>① 平成28年度直営開始施設(高清水小学校・洞内小学校・四和小学校)</p> <p>② 平成30年度直営開始施設(松陽小学校)</p>						
効果						
民間活力の活用と施設管理の効率化が図られる。						
評価指標						
<p>①の施設 評価指標:方針決定の有無 (導入する場合)評価指標:削減した経費(千円) ※高清水・洞内・四和小学校仲よし会の合計額 効果額の測定:制度導入前の経費と導入後の指定管理料(年度協定額)との比較</p> <p>②の施設 評価指標:方針決定の有無</p>						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定			①検討・方針決定(3か所)	①導入(3か所) ②検討(1か所)	②方針決定(1か所)
	実績		新規項目として追加	①指定管理者制度の導入を決定(3か所)	①導入(3か所) ②検討(1か所)	②指定管理者制度の導入を決定(1か所)
効果額・数値	予定				①△1,464	①△1,447
	実績				①△1,464	①△982
備考						

令和元年度の実施内容			
①仲よし会3か所(高清水小学校・洞内小学校・四和小学校)について、指定管理者による管理・運営を実施し、効果額(円、税込)			
校名	平成29年度 管理運営経費(A)	令和元年度 指定管理料(B)	削減額(B-A)
高清水小学校	4,485	4,175	△ 310
洞内小学校	4,458	4,207	△ 251
四和小学校	4,637	4,216	△ 421
		合計額	△ 982
<p>※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として小学校が臨時休業となったことに伴い、市内のすべての仲よし会を午前から開館することとし、開館時間の拡大に伴う必要経費を補正したため、予定効果額比50万円程度、実績効果額(削減額)が減少した。</p>			
<p>② 松陽小学校について、指定管理者制度の導入の決定後、指定管理者候補者の公募、指定管理者候補者の選定、市議会における指定管理者の指定等、必要な手続を行った。 また、指定した指定管理者と基本協定及び年度協定を締結した。</p>			

10	アネックススポーツランドへの指定管理者制度導入の検討	担当課等	スポーツ・生涯学習課			
取組内容						追加
アネックススポーツランドへ指定管理者制度の導入を検討する。						
効果						
民間活力の活用と施設管理の効率化が図られる。						
評価指標						
評価指標:方針決定の有無 (導入する場合)評価指標:削減した経費(千円) 効果額の測定:制度導入前の経費と導入後の指定管理料(年度協定額)との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	<del>                    </del>		検討・方針決定	指定管理者の選定の手続	導入
	実績	<del>                    </del>	新規項目として追加	指定管理者制度の導入を決定	指定管理者を選定、協定締結	導入
効果額・数値	予定	<del>                    </del>				△2,268
	実績	<del>                    </del>				△2,268
備考						

令和元年度の実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年4月1日より、指定管理者による管理を開始した。</li> <li>指定管理の状況の確認、指導、助言等を随時実施した。</li> </ul>	
<p>【効果額】</p> <p>(A) 平成30年度管理運営経費(直営) 12,146,000円  ※ うち、除雪業務委託料(予算)656,000円。指定管理者制度導入後も除雪は市で委託契約。</p> <p>(B) 令和元年度指定管理料(年度協定額) 9,222,000円</p> <p>効果額 &gt; (B) + 656,000円(除雪業務委託料) - (A) = △2,268,000円</p>	

# 1 業務改善等による効果的な行政経営

(3) 組織規模及び任用・給与等の適正化と人材育成等の推進

1		民間企業派遣制度導入の検討		担当課等	総務課		
取組内容							新規
専門知識及び経験が得られる民間企業への派遣制度の導入を検討する。							
効果							
特定の専門知識や経験を兼ね備えた職員の育成が図られる。							
評価指標							
評価指標: 方針決定の有無							
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
取組工程	予定	検討	方針決定				
	実績	検討	見送り方針決定				
効果額・ 数値	予定						
	実績						
備考	【派遣制度の導入を見送る方針を決定した理由】 職員数の減少により災害派遣にも応じられない状況にあること、県の実務研修の受入れや、各研修施設が充実していることから、運用の困難性や制度の有効性を含めて検討した結果、導入を見送ることを決定した。						

2	保健師資格者の行政職給料表への切替えの検討	担当課等	総務課			
取組内容			継続			
保健師が行政職業務に従事する場合は、行政職給料表への切替え等を検討する。						
効果						
職員の弾力的配置及び人材育成が図られる。						
評価指標						
評価指標：課長職の行政職給料表への切替え等を実施した人数(人) 数値の測定：切替前と切替後の比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討	管理職に関する規則等改正・切替え			
	実績	検討	課長職の切替実施			
効果額・数値	予定			1	2	2
	実績		2	2	2	2
備考	<b>【保健師資格者を配置している課等の数】</b> ・平成27年度 3課(国民健康保険課1人、高齢介護課5人、健康増進課13人) ・平成28年度 3課(国民健康保険課1人、高齢介護課5人、健康増進課13人) ・平成29年度 2課(高齢介護課5人、健康推進課12人) ・平成30年度 3課(国民健康保険課1人、高齢介護課3人、健康推進課13人)					

<b>令和元年度の実施内容</b>	
実績なし(課長級への昇任者なし)	
<b>【参考】保健師資格者を配置している課等の数</b> ・令和元年度 3課(国民健康保険課1人、高齢介護課3人、健康増進課13人) ・令和2年度 3課(国民健康保険課1人、高齢介護課2人、健康増進課14人)	



3 国際教育支援事業の見直し		担当課等	指導課			
取組内容						新規
外国語指導助手(ALT)の充実に伴い、国際教育支援事業の見直しを行う。						
効果						
外国語指導助手の充実に伴い、国際教育支援事業の見直しを行う。						
評価指標						
評価指標：外国語指導助手と国際教育支援員(EST)の学校派遣回数 効果の測定：平成26年度の訪問回数と各年度における訪問回数との比較(%)						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	実施	実施
効果額・ 数値	予定	190	190	190	190	190
	実績	123	135	139	172	184
備考	<b>【ALTとESTの派遣の状況】</b> ・平成26年度実績 ALT 750回、EST 81回 合計 831回(26年度7月よりALTが4人から6人へ増員) ・平成27年度実績 ALT 1,000回、EST 25回 合計 1,025回 ・平成28年度実績 ALT 1,090回、EST 36回 合計 1,126回 ・平成29年度実績 ALT 1,127回、EST 27回 合計 1,154回 ・平成30年度実績 ALT 1,400回、EST 28回 合計 1,428回(30年度8月よりALTが6人から8人へ増員) ・令和元年度実績 ALT 1,510回、EST 15回 合計 1,525回					

令和元年度の実施内容					
・小学校外国語活動の授業が令和3年度からの本格実施に向けた移行期間中であったことにより授業時数が増加し、外国語指導助手の派遣回数も増加した。 ・小学校からは、3学年以上の外国語活動の授業以外にも、低学年児童を対象とした国際理解教育(異文化理解)のための派遣要請や全校で行う国際交流会への派遣要請もあり、ALT・ESTの派遣が多岐に渡っている。					
・令和元年度ALT及びEST派遣校別回数内訳					
ALT				EST	
小学校名	回数	中学校名	回数	小学校名	回数
三本木小	114	三本木中	105	東小	8
北園小	87	十和田中	84	北園小	7
南小	82	切田中	94	小計	15
東小	85	大深内中	33		
西小	58	甲東中	61		
下切田小	65	四和中	22		
藤坂小	64	東中	83		
高清水小	56	第一中	23	ALT合計	1,510
洞内小	53	十和田湖中	24	EST小計	15
松陽小	62	小計	529	合計	1,525
深持小	52				
ちとせ小	61				
四和小	49				
沢田小	61				
法典小	32				
小計	981				

4	特殊勤務手当の見直し	担当課等	総務課			
取組内容					追加	
給与・手当等について国・県の制度を基準に見直しを図る。						
効果						
国・県と同様な給与制度となる。						
評価指標						
評価指標: 使用料等収納手当支給額(千円) 数値の測定: 見直し前と見直し後の比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定		組合との協議	組合との協議	対象手当の廃止	
	実績		組合との協議	組合との協議	組合との協議 条例改正	対象手当の廃止
効果額・ 数値	予定				△89	△89
	実績					△5
備考	【対象手当の支給実績】 ・平成26年度 24千円 ・平成27年度 9千円 ・平成28年度 7千円(2課(国民健康保険課、高齢介護課)7人) ・平成29年度 9千円(2課(国民健康保険課、高齢介護課)7人) ・平成30年度 5千円(2課(国民健康保険課、高齢介護課)5人)					

令和元年度の実施内容	
平成31年4月より使用料等収納手当を廃止(※) ※ 十和田市職員の特種勤務手当に関する条例の一部を改正する条例(平成31年3月20日公布、平成31年4月1日施行)	

5 定員管理の適正化		担当課等		総務課		
取組内容						追加
事務事業の見直し等に努め計画的な定員適正化を図る。						
効果		業務に合わせた適切な人員配置が図られる。				
評価指標		評価指標:職員人件費(給与、手当、退職負担金等含む)(千円) 効果の測定:平成27年度職員数との増減人数×8,500千円				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定		定員管理適正化	定員管理適正化	定員管理適正化	定員管理適正化
	実績		実施	実施	実施	実施
効果額・ 数値	予定		△ 8,500	△25,500	△68,000	△68,000
	実績		△34,000 (△4人)	△68,000 (△8人)	△93,500 (△11人)	△187,000 (△22人)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十和田市立中央病院、その他団体へ派遣している職員は除く。</li> <li>・定員適正化計画における平成27年度と各年度との職員数との差は、28年度1人減、29年度1人増、30年度5人減、元年度0人。</li> <li>・人件費8,500千円のうち共済費1,200千円、退職手当組合負担金1,500千円。</li> </ul>					

令和元年度の実施内容										
令和元年度の増減数:△11人 (1人当たり人件費8,500千円×累計減員数22人=187,000千円)										
【定員適正化計画】 (単位:人)										
部門	区分	計画 前年度	計画期間(H28.4.1~R2.3.31)の状況					R2.4.1 R2(B)	増減((B)-(A))	
			H27(A)	H28	H29	H30	R1		人数(C)	増減率 (%)
一般行政部門	計画	(4.1現在) 297 対前年増減数	296 △1	297 1	297 0	298 1	294 △4	△3	△1.0	
	実績	(4.1現在) 対前年増減数	295 △2	294 △1	304 10	298 △6	297 △1			
特別行政部門 (教育)	計画	(4.1現在) 71 対前年増減数	71 0	71 0	66 △5	65 △1	65 0	△6	△8.5	
	実績	(4.1現在) 対前年増減数	70 △1	67 △3	58 △9	53 △5	53 0			
公営企業等部門 (水道・下水道・国民 健康保険・介護保険・ 後期高齢・卸売市場)	計画	(4.1現在) 66 対前年増減数	66 0	66 0	66 0	66 0	66 0	0	0.0	
	実績	(4.1現在) 対前年増減数	65 △1	65 0	61 △4	61 0	58 △3			
総計	計画	(4.1現在) 434 対前年増減数	433 △1	434 1	429 △5	429 0	425 △4	△9	△2.1	
	実績	(4.1現在) 対前年増減数	430 △4	426 △4	423 △3	412 △11	408 △4			
<p>※ 令和2年度(R2)の実績欄は、実績見込値を記載。</p> <p>【令和元年度の増減内訳】・減員 人事課を総務課へ統合 △1人、十和田湖支所の廃止 △7人、 十和田湖公民館の廃止 △3人、農林部と観光商工部の統合 △1人 商工労政課と観光推進課の統合及び係の再編 △2人 単労職(学校用務員・運転手)の退職不補充 △2人、公民館業務の見直し △1</p> <p>・増員 西コミュニティセンターの設置 3人、こども家庭相談センターの設置 1人 新庁舎総合案内専任職員の配置 1人、生活保護ケースワーカーの増員 1人</p>										

# 1 業務改善等による効果的な行政経営

## (4) 自主性・自立性の高い財政運営の確保

1	庁内備品の再利用の推進		担当課等	管財課・会計管理者			
取組内容							継続
各部署で不要となった備品を取りまとめ、全庁的に備品の再利用を推進する。							
効果		再利用に伴い、備品購入経費の削減が図られる。					
評価指標		評価指標: 再利用した備品の購入価格(千円) 効果の測定: 単年度の実績					
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
取組工程	予定	一覧表作成 再利用実施	再利用実施	再利用実施	再利用実施	再利用実施	
	実績	再利用実施	再利用実施	再利用実施	再利用実施	再利用実施	
効果額・ 数値	予定						
	実績			△175	△505	△5,730	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財産台帳電子システム化に合わせ、システムを利用した数量の管理は会計係で行う。</li> <li>・上記の評価指標における再利用した備品の購入価格については、3-(1)-2における評価指標①と関連あり。</li> </ul>						

令和元年度の実施内容	
<p>・新庁舎への引っ越しに合わせて、各課で不要となった備品について管財課で取りまとめを行い、再利用が可能なもの、不可能なものを整理の上、再利用が不可能なものについては処分し、備品の整理に努めた。</p> <p>【効果額】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再利用したもの(3-(1)-2における評価指標①の関連) 机、椅子等 &gt; 232備品 計5,730千円(市場売払い価格相当額)</li> </ul>	

2	公共施設通勤車両の駐車スペースの有料化	担当課等	管財課			
取組内容						継続
公共施設内に通勤用自動車を駐車している職員等から自動車の駐車に係る料金を徴収する。						
効果						
受益者負担により、市の収益増が図られる。						
評価指標						
評価指標：行政財産目的外使用料(千円) 効果の測定：平成27年度と各年度との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	駐車台数調査 料金検討	実施	実施	実施	実施
	実績	駐車台数調査 料金検討	支所にて徴収 実施	支所など5施設 で実施	支所など4施設 で実施	西コミュニティセン ターなど3施設で実施
効果額・ 数値	予定		137	137	137	137
	実績		227	306	230	149
備考						

令和元年度の実施内容				
【効果額】				
	南コミュニティ センター	東コミュニティ センター	西コミュニティ センター	合計
利用人数 (台数)	1	2	87	90
使用料 (円)	4,412	5,693	139,305	149,410
・年間使用料＝土地1㎡あたりの評価額(円/㎡)×(4/100)×使用面積(㎡) ※ 使用面積は、2.5m×5m≒13㎡				

3	長寿祝金の見直し	担当課等	高齢介護課			
取組内容			新規			
満88歳の長寿祝金の支給額及び支給方法を見直す。						
効果						
経費の削減が図られる。						
評価指標						
評価指標：満88歳の長寿祝費に係る報償費の額(千円) 効果額の測定：見直し前と見直し後の88歳の長寿祝費に係る報償費の差額						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	準備	実施	実施	実施	実施
	実績	準備	実施	実施	実施	実施
効果額・ 数値	予定		△1,238	△2,791	△3,026	△4,319
	実績		△1,409	△2,881	△3,028	△4,309
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度は、H26.9.2～H27.9.1までの満88到達者に対し、祝金として1万円を贈呈。</li> <li>平成28年度は、H27.9.2～H28.3.31までの満88到達者に対し、経過措置として1万円を贈呈、H28.4.1～H28.9.1までの満88歳到達者に対し、顕彰状及び記念品を贈呈。</li> <li>平成29年度以降の祝金対象者(H28.9.2以降の満88歳到達者)については、顕彰状及び記念品を贈呈。</li> </ul>					

令和元年度の実施内容						
【効果額】						
		27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
88歳の方	当初見込者数(人)	272	348	356	386	551
(A) 見直し前 (88歳長寿祝金 1万円贈呈)	金額(千円)	2,720	3,480	3,560	3,860	5,510
(B) 見直し後 (88歳長寿祝金に係る報償費)	金額計(千円)		2,071	679	832	1,201
記念品(個数=対象者+@)	購入個数(個)		160	340	335	354
	金額(千円)		301	679	832	1,201
経過措置 1万円	実人数(人)		177			
	金額(千円)		1,770			
効果額 (B)-(A))			△ 1,409	△ 2,881	△ 3,028	△ 4,309

4	市民ふれあい農園の有料化		担当課等	農林畜産課		
取組内容						継続
無償で貸付けしている市民農園を有料化する。						
効果						
受益者負担により、市の収益増が図られる。						
評価指標						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	調査・検討	有料化せず			
	実績	調査・検討	有料化せず			
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	<p>【市民農園の有料化を実施しないこととした理由】  有料化した場合、事業経費等は幾分減少するが、それらに伴う利用者の要望などを反映した事業を実施する場合、周辺設備等に係る多くの経費が見込まれる。また、現在の市民農園は借地であるため、施設整備のためには市有地で行う必要が生じるが、適切な候補地が見当たらない。これらのことから、実施しないこととする。  ※ 有料化している自治体で行っている整備…給排水設備、駐車場、貸出用農具</p>					

5	現代美術館観覧料の見直し	担当課等	商工観光課			
取組内容						新規
現在、無料としている高校生以下の観覧料を見直す。						
効果		観覧料収入が増加し、指定管理料の削減が図られる。				
評価指標		評価指標:方針決定の有無				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	指定管理者と協議	検証・検討	検証・検討	検証・検討	
	実績	指定管理者と協議	検証・検討	高校生以下の観覧料見直しは実施しないことを決定	方針決定済み	
効果額・数値	予定					
	実績					
備考	<p>【常設展観覧料収入】 平成27年度 28,077千円、平成28年度 27,658千円、平成29年度 30,475千円、平成30年度 32,374千円、令和元年度35,197千円</p> <p>【指定管理料】 平成27年度 57,430千円、平成28年度 57,430千円、平成29年度 57,430千円、平成30年度 57,430千円、令和元年度57,962千円</p> <p>【見直しを実施しないこととした理由】 高校生の有料化については、収益の増加によるプラス効果より、美術館イメージの低下や入場者数減というマイナスの影響の方が大きいと判断し、検討を終了する。なお、代替案として、十和田市民以外の観覧料の見直し(値上げ)も検討したが、他の近隣の公立美術館の観覧料と比較しても当美術館の常設展観覧料は妥当な金額であり、値上げの積極的理由(大規模なりニューアルなど)もないことから、現状の観覧料を維持することとした。</p>					



6	市営の駐車場料金の見直し	担当課等	関係課			
取組内容						継続
市営の駐車場(中央、西二番町、北園)に係る駐車料金を見直す。						
効果						
料金収入の増が図られ、駐車場の維持管理に活用できる。						
評価指標						
評価指標: 料金収入(千円) 効果額の測定: 各年度駐車実績台数に値上げ分を乗じた額						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	条例改正	新料金実施	新料金実施	新料金実施	新料金実施
	実績	条例改正	7月1日から 1台200円	1台200円	1台200円	1台200円
効果額・ 数値	予定		4,520	6,400	6,400	6,400
	実績		5,858	8,169	9,127	9,161
備考	<p>・平成28年7月より中央駐車場、北園駐車場、西二番町駐車場の駐車料金を改定。(普通乗用車150円から200円へ)</p> <p>&lt;予定&gt; 平成28年度 90,400台 × (200円 - 150円) = 4,520千円(7月から3月) 平成29年度以降 128,000台 × (200円 - 150円) = 6,400千円(4月から3月)</p> <p>&lt;実績&gt; 平成28年度 117,169台 × (200円 - 150円) = 5,858,450円(7月から3月) 平成29年度 163,381台 × (200円 - 150円) = 8,169,050円(4月から3月) 平成30年度 182,543台 × (200円 - 150円) = 9,127,150円(4月から3月)</p>					

令和元年度の実施内容				
【効果額】				
駐車場名	総駐車台数(A)	無料券配布(B)	実質台数(A-B)	効果額
①中央駐車場	112,073台	32,792台	79,281台	3,964,050円
②北園駐車場	86,840台	579台	86,261台	4,313,050円
③西二番町駐車場	35,846台	18,155台	17,691台	884,550円
合計	234,759台	51,526台	183,233台	9,161,650円

※ 効果額は、実質台数 × 50円(駐車料金改定後の差額)

※ 西二番町駐車場は、バスの使用料総額720円を除く。

7	有料広告の拡充	担当課等	関係課			
取組内容			継続			
新たな広告媒体、有料広告の募集方法の見直し等により有料広告を拡充する。						
効果						
市の収益増が図られる。						
評価指標						
評価指標：広告掲載料及び寄附相当額(千円) 効果額の測定：平成27年度の広告掲載料との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	現状調査	活用研究	実施	実施	実施
	実績	現状調査	活用研究	実施	実施	実施
効果額・ 数値	予定					
	実績		110	△123	662	2,229
備考	<b>【広告掲載料】</b> ・平成27年度 2,240千円(広報とわだ,HP,資料冊子,納税通知書,窓口封筒,図書館雑誌スポンサー) ・平成28年度 2,350千円(広報とわだ,HP,資料冊子,納税通知書,窓口封筒,図書館雑誌スポンサー) ・平成29年度 2,117千円(広報とわだ,HP,資料冊子,窓口封筒,図書館雑誌スポンサー) ・平成30年度 2,902千円(広報とわだ,HP,資料冊子,公用共通封筒,窓口封筒,婚姻届,図書館雑誌スポンサー) ・令和元年度 4,469千円(広報とわだ,HP,資料冊子,公用共通封筒,窓口封筒,婚姻届,図書館雑誌,スポンサー,情報誌・ガイドブック)					

令和元年度の実施内容	
広報とわだへの広告掲載や市ホームページのバナー広告等、従来からの広告掲載等を引き続き実施するとともに、令和元年度は新たに空き家情報誌及びごみと資源の出し方ガイドブックの寄附を受けた。	
【広告掲載料の実績】	合計1,745,000円
・広報とわだ	1,560,000円
・市ホームページ	120,000円
・十和田市すこやか長寿を祝う会	65,000円
【寄附(経費削減相当額)の実績】	合計2,724,981円
・総務課広告入り公用共通封筒	114,480円(税込)
・市民課窓口封筒	365,200円(税込)
・市民課婚姻届(パンフ等一式)	147,150円(税込)
・図書館雑誌スポンサー	61,351円(税込)
・まちづくり支援課情報誌・ガイドブック	2,036,800円(税込)

8	公共施設における自動販売機の設置方法の統一化	担当課等	管財課（施設所管課）			
取組内容			追加			
自動販売機の設置方法を、貸付面積によって使用料が決まる目的外使用許可から、入札によって貸付額が決まる貸付方法に移行する。						
効果						
貸付料の増が図られ、施設の維持管理に活用できる。						
評価指標						
評価指標：自動販売機設置による収入(千円) 効果の測定：移行前年度の目的外使用料と移行後の貸付料との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	一部実施	順次移行	順次移行	順次移行	順次移行
	実績	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施	一部実施
効果額・数値	予定		5,500	6,643	6,643	11,483
	実績	75	6,643	8,854	8,581	7,158
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庁舎分については平成25年度より実施。平成27年度中の更新分については、入札により実施済み。</li> <li>・目的外使用の場合の収入額 1台あたり平均30千円</li> <li>・貸付による場合の収入 1台あたり平均250千円</li> </ul>					

令和元年度の実施内容			
<b>【効果額】</b>			
令和元年度貸付額7,233,571円－平成27年度貸付額75,000円＝7,158,571円			
・令和元年度 自販機設置施設の所管課別内訳			
施設所管課	設置施設(場所)	台数	金額(円)
管財課	市役所(本館、別館、旧本館)	4	796,749
まちづくり支援課	市民交流プラザ、南・東・西コミュニティセンター	8	786,109
商工観光課	馬事公苑、宇樽部キャンプ場、市民の家、勤労青少年ホーム	11	1,373,577
都市整備建築課	桜の広場	2	1,016,004
健康増進課	保健センター	2	6,869
スポーツ・生涯学習課	体育センター 他14施設	55	2,862,843
市民図書館	教育プラザ(市民図書館)	2	391,420
合計		84	7,233,571
一台平均			86,114
※ 契約更新により、令和元年10月以降は、市役所別館にて1台減、高森山総合運動公園・若葉球技場にて7台減となったため、令和元年度末の最終的な台数は76台となる。			

## 2 市民と行政との協働

### (1) 市民との協働の推進

1	外部評価の実施	担当課等	政策財政課・総務課			
取組内容					新規	
効果的かつ効率的な行政運営について、外部の意見を求める。						
効果						
市が実施する事務事業評価の客観性を確保する。						
評価指標						
評価指標:外部評価の結果を踏まえ、改善が図られた事業数(件) 効果額の測定:各年度の数						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	実施	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	実施	実施
効果額・ 数値	予定	10	3	3	3	3
	実績	13	11	5	8	8
備考	※ 平成27・28年度の評価指標(実績)については、上記の評価指標によらず、外部評価の対象候補とした全ての事業数(件)としている。					

令和元年度の実施内容	
<p>「第2次十和田市総合計画第1期実施計画」及び「十和田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る以下の8事業について外部評価を実施し、事業の改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季観光の充実・強化</li> <li>・現代美術館の活用</li> <li>・放課後児童クラブ(仲よし会)</li> <li>・介護予防・日常生活支援</li> <li>・新たな広域的コミュニティ活動支援</li> <li>・元気な十和田市づくり市民活動支援事業</li> <li>・公園施設の整備</li> <li>・公共交通の維持・確保</li> </ul>	

## 2 市民と行政との協働

### (2) 市民参画の推進

1	外郭団体の自立の推進	担当課等	関係課			
取組内容			継続			
市の各課に事務局を置いている団体の自立を促す。						
効果						
市の業務の効率化が図られる。						
評価指標						
評価指標: 団体運営に係る経費(千円) 効果額の測定: 団体が自立する前年度とそれ以降の各年度との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
取組工程	予定	準備	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施
	実績	調査・方針検討	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施	各団体との協議 準備・実施
効果額・ 数値	予定					
	実績			△91	△180	△328
備考	<b>【検討対象団体】</b> 新渡戸友好都市交流委員会、青少年補導委員協議会、人権擁護協議会部会事務局 ※ これ以外にも、移行が可能な団体があるか調査検討していく。 <b>【団体運営に係る経費】</b> ・市で行っている場合に係る経費は、事務に携わる時間数から計算。 ・自立後に係る経費は、自立によって新たに生じた補助金等を積算。					

令和元年度の実施内容					
<b>【調査関係】</b>					
・平成29年7月10日付け 外郭団体等に関する調査の実施について(依頼)					
<b>【令和元年度末までに事務局を移管した団体】</b>					
・十和田きみがらスリッパ生産組合 平成31年4月17日事務局移管済、とわだ産品販売戦略課所管)					
<b>【効果額】</b>					
団体名	延従事時間 (A)	勤務単価/h (B)	団体運営に係る経費 (A×B)	移管後に団体へ 交付する補助金等	削減経費合計
十和田きみがらスリッパ生産組合	184時間	1,786.6円	328,734円	0円	328,734円
※ 延従事時間数は、移管前の平成30年における実績。 ※ 勤務単価(h) = 年間給料3,600,000円 / (勤務週数52週 × (勤務時間数7.75h × 5日)) = 1,786.6円					

### 3 公共施設等の再編整備による資産の総合的な利活用

#### (1) 公共施設等の総合的な管理と適正配置

1	市有財産の貸付に係る有償化等の検討		担当課等	管財課		
取組内容						継続
無償貸付している土地等の有償化又は売却等を検討する。						
効果						
市有財産の有効活用及び市の収益増が図られる。						
評価指標						
評価指標: 無償貸付財産等の洗い出しと、有償化等の検討						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	調査	検討	方針決定	有償化調査	
	実績	調査	貸付一覧表作成	有償化等を検討	調査・検証	
効果額・ 数値	予定					
	実績					
備考	・無償貸付けしている土地等について貸付一覧表を作成し、調査・検証したところ、公共団体、公共的団体、地縁団体等に貸付していることから、有償貸付けする対象の土地がなかったため、検証を終える。					

2	財産台帳電子システムの導入				担当課等	管財課・会計管理者
取組内容					新規	
財産台帳の電子システムを導入し、公会計の複式簿記化を進め、備品を含む、市の全資産を把握する。						
効果					公会計の資産部分の基礎データを整え、公共施設等の総合的な管理、備品の有効利用が図られる。	
評価指標					評価指標:①再利用した備品の購入価格(千円)、②有償化又は売却した金額(千円)【再掲】 効果の測定:①②単年度の実績【再掲】	
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	データ作成	システム構築 資産評価	データ活用	データ活用	データ活用
	実績	データ作成	システム構築 資産評価	データ活用	データ活用	データ活用
効果額・ 数値	予定					
	実績			① △175 【再掲】	① △505 【再掲】	① △5,730 【再掲】
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを基に、未利用地、無償貸付、備品の使用状況等を確認し、未利用地の売却、無償貸付財産の有償化、備品の再利用等に反映させる。</li> <li>・効果額については、1-(4)-1斤内備品の利活用の推進、3-(1)-1市有財産の貸付に係る有償化等の検討において行う。</li> <li>・財産台帳電子システムを活用し、備品管理を行う。</li> </ul>					

令和元年度の実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・データについて、市有地に関する問い合わせに係る所管部署への照会、建物の建築(取得)金額の把握、市有財産に関する各種資料の作成等に活用した。</li> <li>・備品については、会計管理者と連携を図りながら当該システムに入力し、購入年月日や購入価格等を把握し、データの異動更新を行った。</li> <li>・地方公会計へ対応するため、異動のあった市有財産の評価を行い、地方公会計との連携を図った。</li> <li>・古くなった車両及び新庁舎への引っ越しに伴い整理した再利用が困難な机・椅子等の売払いを実施した。</li> <li>・データを活用した土地の売却はなし。</li> </ul>	
【効果額】	
・1-(4)-1「斤内備品の再利用の推進」での効果額 5,730千円【再掲】(評価指標①)	

3	小・中学校における統廃合	担当課等	教育総務課			
取組内容			継続			
複式学級の解消及び耐震診断結果並びに児童生徒数の減少を踏まえ、統廃合を検討するとともに実施する。						
効果						
児童生徒のための教育環境の充実及び経費削減が図られる。						
評価指標						
評価指標：閉校となった学校の経費(千円) 数値の測定：閉校前年との比較						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施
	実績	下切田小と上切田小の統廃合準備を完了	下切田小と上切田小の統廃合	十和田湖小と十和田湖中の併置準備完了	洞内小と松陽小の統合及び大深内中との併置準備	洞内小と松陽小の統合及び大深内中との併置準備
効果額・数値	予定		△7,000	△5,369	△10,169	△10,169
	実績		△5,369	△5,369	△11,343	△11,343
備考	【平成26年度時点で複式学級を持つ学校】 上切田小、下切田小、洞内小、松陽小、高清水小、深持小、四和小、十和田湖小、十和田湖中 ・複式学級を持つ学校の維持管理経費(平成29年度) 平均7,512千円					

令和元年度の実施内容	
<p>・昨年度から引き続き、洞内小と松陽小の統合及び大深内中との併置に向け、教育的な諸課題の調査及び検討を行った。</p> <p>・複式学級を有する5小学校(下切田小学校、深持小学校、高清水小学校、沢田小学校、法奥小学校)に対し、児童の保護者及び未就学児の保護者を対象とした今後の学校のあり方に関するアンケート調査(7月実施)を行うとともに、保護者懇談会及び地区懇談会を開催した。</p>	



### 3 公共施設等の再編整備による資産の総合的な利活用

#### (2) 公共施設等市有財産の利活用の最大化

1	公共施設等総合管理計画の策定		担当課等	管財課		
取組内容						新規
「公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針」及び「インフラ長寿命化基本計画」に基づき策定する。						
効果		施設の整備修繕経費の軽減が図られる。				
評価指標		評価指標: 管理計画の策定				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	基本方針策定	管理計画策定	適宜見直し	適宜見直し	適宜見直し
	実績	基本方針案検討	管理計画策定	見直し案決定	見直し案決定	見直し案決定
効果額・数値	予定					
	実績					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設毎の管理計画を基に、整備修繕経費の軽減及び平準化を図る。</li> <li>廃止、解体と位置づけされた施設については、売却等処分の方法について検討を行う。</li> </ul>					

令和元年度の実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等総合管理計画の見直し及びインフラ長寿命化基本計画の確認を行った。</li> </ul>	

## 4 定住自立圏を活用した広域行政の推進

(1) 広域事務処理の拡大による行政サービスの向上

1	十和田地区食肉処理事務組合の運営のあり方の検討	担当課等	農林畜産課			
取組内容					新規	
事務組合の構成団体として、より効率的な運営のあり方を検討する。						
効果						
評価指標: ①十和田地区食肉処理事務組合への負担金(千円)、②派遣職員人数(人) 数値の測定: ①負担金変更前年との比較、②指定管理移行前年との比較						
評価指標						
効率的な運営が期待される。						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討	方針決定			
	実績	指定管理者制度を導入を決定	指定管理者制度開始(3年間)			
効果額・数値	予定		①0 ②△1	①△21,884 ②△2	①△21,884 ②△2	①△21,884 ②△2
	実績		①0 ②△2	①△21,884 ②△2	①△21,884 ②△2	①△21,884 ②△1
備考	・食肉センターについて平成28年4月から指定管理者制度を導入済み。 ①負担金について 平成28年度まで 28,014千円。平成29・30年度 6,130千円。 ②派遣職員人数について 平成27年度 2名派遣 平成28～30年度 派遣0名 令和元年度 派遣1名					

2	十和田地区環境整備事務組合の運営のあり方の検討	担当課等	関係課			
取組内容			新規			
事務組合の構成団体として、より効率的な運営のあり方を検討する。						
効果			効率的な運営が期待される。			
評価指標			評価指標：十和田地区環境整備事務組合負担金(千円) 効果の測定：十和田市下水処理場で共同処理する前年度の負担金との比較			
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	方針決定	計画策定	計画策定	前処理施設建設	前処理施設建設
	実績	方針決定	計画策定	計画策定	前処理施設建設	前処理施設建設
効果額・ 数値	予定			△4,120		
	実績		△2,925	△14,036	△25,959	△27,859
備考	<p>【方針について】 平成27年度、関係市町村による会議において効率的な運営を検討した結果、六戸衛生センターで処理しているし尿等を、十和田市下水処理施設で共同処理<sup>※</sup>、運営管理を広域事務組合に移す方針が決定された。 ※ し尿等の前処理施設による処理を経て、十和田市下水処理施設にて5市町村分を共同処理する。</p> <p>○負担金の金額 平成27年度147,401千円、平成28年度144,476千円、平成29年度133,365千円、平成30年度121,442千円、令和元年度119,542千円</p>					

令和元年度の実施内容	
<p>【し尿等の前処理施設の建設の状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・し尿等前処理施設設計、施工監理業務委託の実施</li> <li>・し尿等前処理施設建設工事</li> </ul>	

## 4 定住自立圏を活用した広域行政の推進

### (2) 公共施設の相互利用と適正配置

1	職業能力開発校の広域的な連携の検討		担当課等	商工観光課		
取組内容						新規
圏域内の職業能力訓練校の連携について検討する。						
効果		圏域内の住民サービスの向上が図られる。				
評価指標		評価指標: 方針決定の有無 (実施となった場合) 評価指標: 職業能力開発校への支払額(千円) 効果額の測定: 平成26年度と各年度との比較				
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	検討	検討	方針決定		
	実績	検討	検討	広域連携を実施しないことを決定		
効果額・数値	予定					
	実績					
備考	検討の結果、広域連携を実施しないこととしたため、「効果額・数値」は算定できない。					

2	公共施設の相互利用促進	担当課等	スポーツ・生涯学習課			
取組内容						新規
圏域間で施設の情報共有、圏域内施設の相互利用を促進する。						
効果						
圏域内の施設を相互に利用し、利用施設を増やすことで、学習・文化・スポーツ活動の拡充、及び新たな施設整備の経費縮減を図る。						
評価指標						
評価指標：圏域内相互利用件数(件) 数値の測定：各年度の実績						
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取組工程	予定	一覧表の作成	情報共有の体制構築	一覧表の公表	一覧表の更新	
	実績	一覧表の作成	情報共有の体制構築	一覧表の公表	一覧表の更新	一覧表の更新
効果額・数値	予定					
	実績		情報共有の体制構築	情報共有の体制構築	情報共有の体制維持	情報共有の体制維持
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互利用可能施設一覧の更新及び情報共有体制を維持する。</li> <li>・平成29年度相互利用率実績値 2.2%</li> <li>・平成30年度相互利用率実績値 6.0%</li> <li>・令和元年度相互利用率実績値 8.2%</li> </ul>					

令和元年度の実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度から実施している相互利用可能施設一覧を更新し、圏域市町村と情報共有体制を構築した。</li> <li>・平成29年度に相互利用率の向上を目指し、現状値4.6%(H28実績値)を目標値5.0%(H34目標値)に定めた。</li> <li>・相互利用施設一覧の更新</li> </ul>	